

野菜



定植後の管理



野菜

宮内 勝幸

上島営農指導センター
080-2751-6373

野菜の定植も終わり、順調に育ちは始めていると思います。これから楽しみな収穫までの大切な管理方法などについてポイントを紹介します。



- ・一番目の花が咲き、生長してくると茎や葉のつけ根から芽が盛んに出てきます（わき芽という）。



- ・トマトは基本的には一本立てにしますので、「わき芽」は全て摘み取りましょう。
- ※実を大きくし、日当たりや風通しをよくし、病害虫の発生を少なくします。

・主柱を立て誘引しましょう

竹などで主柱を立て、トマトが倒れないよう茎をひもで数回ねじり、主柱と茎の間にあそびをつけます。

・授粉作業をしましょう

実をつけやすくするため、花の花粉がついてから花の房を軽く揺るか、市販のホルモン剤（トマトーン）をスプレーで花に散布しましょう。（着果を促す効果があります。）

ホルモン剤は同じ花に2度散布しないよう注意してください。（2度かけると実が奇形になります。）

- ・生育の悪い実は早めに摘み取りましょう。

一房の實の目安

大玉トマト	4～5果
中玉トマト	7～8果
ミニトマトは摘み取りません	

- ・摘心（新芽を摘み取ること）をします

主柱の高さに茎が伸びると5～6花房がつきますので、一番上の花房の上の葉を2枚残して摘心しましょう。

・追肥

肥えた土の場合は、一般的に追肥の必要はありませんが、一番目の果実がピンポン玉大になったころ化成肥料を1本に10g位をトマトの株元にまき、土に軽く混ぜます。

※一度に多く追肥をすると根が傷んだり、果実の尻腐れがでることがありますので注意してください。また石灰が不足することにより尻腐れが発生します。

・収穫

開花してから約50～60日で収穫できます。

家庭菜園の場合は真っ赤に色づいた時（完熟）に収穫しましょう。

※市販のトマトは多くは赤くなりはじめた時に収穫し、店頭に出るまでの間に全体が赤くなります。



・わき芽摘み

定植後、生長し一番目の花（一番花）の下わき芽を2本残して、その下わき芽は全部摘みとりましょう。



・主柱を立てます

風で倒れないよう主柱を立てましょう。結ぶ時は茎をひもで数回ねじり、主柱と茎の間にあそびをつけます。

・追肥

実がつき出してから、化成肥料を1本10g位まき、土とよく混ぜましょう。その後の追肥は生育の状況をみて通路わきにしましょう。

・収穫

開花後2週間くらいで収穫できます。

はじめはあまり大きくすると株が弱りますので、早目に収穫し、あとは好みの大きさになったら収穫しましょう。



・主柱を立てます

ナスと同じく、主柱に直接結ばずひもを数回ねじって結びましょう。

・子づるを摘みとりましょう

親づるの5～6節までの子づるは全て摘みとります。

7節目以上の子づるは1～2節目で摘心します。

主柱の高さ（約160cm前後）になったら先端部を摘みとります。

※2本立てにする場合は5～6節目の強い子づるを伸ばし、親づると同じようにします。

・追肥

肥料がなくなる（肥料切れ）と果実が変形しますので、1ヵ月に2度位追肥しましょう。

1回目は株元に、2回目以降は畔の両わき位のところに追肥しましょう。（1回1㎡あたり30g程度）

・病害虫に注意

きゅうりは病害虫の発生が多い野菜ですので、日頃からよく観察しましょう。

特に葉の表面が白い粉のようなものが発生（うどんこ病）することが多いので、風通しをよくすることが大切です。

・収穫

開花後2週間位（20cm前後の長さ）で収穫できます。

水稲



農作業メモ



水稲

吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

○田植え

3月下旬より田植えが始まります。苗は、田植えの5日前位から育苗ハウスのサイドビニールを下げて、外気に充分ならしめよう。(遅霜の場合は注意して下さい。)

①田植えの適期は4月5日から15日です。

②植え付け本数は、坪当たり55～60株程度、1株の苗数は3～5本が標準となります。苗数が多くなると過繁茂の原因となり、倒伏や病害虫が発生しやすくなりますので注意しましょう。田植機の整備・調整は事前に必ず行って下さい。

③植え付けの深さは活着や分けつ等に大きく影響しますので、2～3cmを目安としましょう。

○水管理

暖かい日中は浅水にしますが、活着するまでは朝晩冷え込むことがありますので、新しい根が出るまでは深水にしましょう。活着後は浅水管理で水温・地温の上昇を図り、分けつの促進に努めて下さい。

○病害虫防除

初期では、イネミズゾウムシや葉いもち病が防除の中心となり

ます。田植え前に必ず箱施薬(Drオリゼ・パディート)を散布むらがないように施用しましょう。1箱当たりの散布量は50gとなります。

移植後の活着を促進する為に、活着肥としての硫安(7kg/10a)の散布を行って下さい。

尚、作業省力の為にJAでは「ハイパーCDU」の使用も可能です。この場合は、田植時の箱苗に100gをむらなく散布して下さい。

除草剤(※ボディーガード)は、田植え後5日から15日に散布し、その後は湛水状態を5日程度保って下さい。水の掛け流しや、土の表面が見えるような場合は、除草の効果が落ちます。

尚、本年より第1回目の除草散布で成果が望めない場合は、第2回目の(アトトリ)散布も可能と致しました。

浅水状態で土の表面が見える場合は秋起こし時に土の移動を行い均平にしましょう。

箱施薬や除草剤の使用方法は早期水稲耕種基準に記載しています。



果樹



3月の柑橘園管理



果樹

鶴浜 研二
上島営農指導センター
080-1771-4257

1. 家庭選別の徹底(貯蔵中の管理)

例年に比べ日中気温が高く推移しております。年内から、果皮障害の発生が見られておりますので、出荷時には障害果の混入が無いよう注意をお願いします。

また、昼夜の庫内温度差が大きいと果実の結露がみられ、デコボンや清見ではヤケ果が発生しやすくなります。果実の状態を確認し、定期的に換気を行いましょう。

2. 河内晩柑の収穫基準

品 種	区 分	収穫時期	予 措
河内晩柑	適期採取	3/1～3/31	14日(3%)
	後期採取	4/1～4/30	7日(2%)
	後期Pプラス	3月・4月区分採取	
	木成り採取	5月以降	—

※河内晩柑では本格的な収穫期に入ります。収穫前には貯蔵病害の防除を徹底し、収穫に臨みましょう。

3. 病害虫防除

対象病害虫	品 種	農薬名	希釈倍数	備 考
かいよう病	温州	ICボルドー66D	60倍	3月中旬(発芽前)
	中晩柑			3月中～下旬(発芽前)
ミカンハダニ	中晩柑	ハーベストオイル	80倍	3月中～下旬(発芽前)

※温州ミカンで12月にハーベストオイルを散布していない園では、発芽前に80倍で散布を行いましょう。

※例年より気温が高いため、発芽時期に注意をお願いします。

4. 施 肥

栽培タイプ	肥料名	品種名	施肥時期	10a当たり
通常タイプ	熊本果樹肥料10-7-4 又は ひのくに果樹9-3-3	極早生温州	3月上旬	4袋
		ポンカン	3月上旬	5袋
	熊本デコボン8-3-3	清見・河内晩柑 甘夏・パール柑	3月上旬	4袋
		デコボン	3月上旬	3袋
省力タイプ	アグリロング28号	河内晩柑・清見・ 甘夏・パール柑	3月上旬	5袋
		デコボン		5袋

5. 樹勢回復・着花対策

収穫が終わりましたら、樹勢回復目的の葉面散布を3回程度行って下さい。

その後、花が少ないと予想される園では花芽分化促進目的の葉面散布を3回程度行って下さい。

目的	薬剤名	希釈倍数	備 考
樹勢回復	尿素又は アミノジューシーN14 又は神協スピリッツ	500倍	収穫後3回程度集中散布
花芽分化促進	ファーマメント 又はジューシーエース	500倍	樹勢回復後3回程度散布